



金沢脳神経外科病院だより ふれあい

2009年
春季号

日本医療機能評価機構認定病院
医療法人社団 浅ノ川
金沢脳神経外科病院 広報誌
第34号
発行所 メディア広報室
石川郡野々市町郷町262-2
TEL 076-246-5600
FAX 076-246-3914
URL : <http://www.incl.ne.jp/knouge/>

病院理念

脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様に、より高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。

基本方針

1. 患者の皆様の権利と人間性を尊重した温かい医療の提供に努めます。
2. 地域の医療機関と連携を行い、患者の皆様が安心と満足の得られる医療の提供に努めます。
3. 脳神経外科専門病院として、地域の救急医療の提供に努めます。
4. 急性期から回復期リハビリ、慢性期の一貫した医療を提供します。
5. 患者の皆様に対して、適切な言葉と態度を心がけるよう努めます。
6. 患者の皆様のご意見、ご希望を医療に反映させるよう努めます。

患者さまの権利

私達は患者の皆様の権利を尊重し、信頼に基づいた医療を行うため、患者の皆様の権利に関する宣言を掲げます。

1. 適切で最善の医療を公平に受ける権利
2. 検査や治療について真実を知り、充分な説明を受ける権利
3. 検査や治療を受ける権利と受けることを拒否する権利
4. プライバシーの秘密保持を得る権利
5. 病院や医師を自由に選択し、あるいは変更する権利

病院長

風雨の中で 火を点す医療人

病院長 佐藤 秀次



昨今の医療を取り巻く環境は、医療提供側から見ても劣悪の一語にできます。国の医療政策は医療の実態から離れており、医療機関は疲労の度を増しています。

一方、医療提供者の責任のみを追及し、自己責任を顧みることの少なくなった社会の風潮。さらに、患者と医療機関との間の不信をあおる人々の増加。あげればきりがないほどに医療人の人道的努力に水をさす状況が広く社会に蔓延しています。

かつて、絶対的強者としていた医療は、時代とともにその地位を失いつつあります。しかし、絶対的強者としていた医療は、時代とともにその地位を失いつつあります。

しかし、このような状況にあっても、地域住民のために誇りと自信を持って、果敢に戦い続ける医療人がまだ多数存在することを地域の方々には知っています。医療の火が消えて、一

番困るのは地域の方々であることはいうまでもありません。まさに、風雨の中で火を点し続ける医療人に地域住民の方々のご協力をお願いする次第です。地域の方々と医療人双方が真摯な努力で築きあげる信頼関係なくしては、健全な医療を実現し、守ることなど到底できないことを肝に銘じた

医療の場に君臨した医師は、マスコミ、世論などから叩かれ続け、今ではまさに敗戦の戦場から敗走しつつあるというのが私の目に映る我が国の医療の一つの姿です。

「新病院の ご近所さん」紹介③

第3回目は、

皆様の不安を安心に変え、
生涯の健康を支える「地域の中核病院」

医療法人社団 **芳珠記念病院**

(わらじ)

石川県能美市緑が丘11-71
〒923-1226



院長:上田博先生 理事長:仲井培雄先生

能美丘陵から能美市を暖かく見守るように建つ病院。今回ご紹介する医療法人社団 和楽仁 芳珠記念病院は、「皆様の不安を安心に変え、生涯の健康を支える」をテーマに、医療・予防・介護の各領域において、様々な取り組みをされています。

《地域の健康を支えるラインナップ》

内科や外科をはじめ、リハビリテーション、小児科、産婦人科など、地域で必要とされる幅広い診療科を揃え、救急から急性期、亜急性期、慢性期までの入院医療に対応されています。いわば“何でもできる”ことも、地域の皆様の安心にとって大切なポイントの一つというお考えです。

予防では、健診事業を充実させ、さらには、ほうじゅ連携室を中心に、地域での健康イベント等に積極的に参加し、”顔が見える”啓発活動に取り組まれています。

介護では、介護療養型医療施設の他に、病院隣接地に、この4月に(株)グリーンケア芳珠が開

設した、小規模多機能型介護施設「コミニケア緑が丘」をはじめ、地域の介護施設との連携強化に取り組まれています。

《地域全体が活動のステージ》

これからの地域の総合病院には、医療や予防、介護といった社会保障以外にも、地域全体の発展のために担うべき役割があると考えておられます。その答えの一つが、能美市や北陸先端科学技術大学院大学と一緒に取り組んでいる地域活性化計画です。

昨年10月には、地元辰口温泉と協力して、温泉に宿泊する人間ドック「湯ったり宿泊コース」を開始し、地元の良さを再確認できる場にもなっており、大変好評とのことでした。



突然ですが、高血圧に種類があることをご存知でしょうか? 高血圧の多くは、原因を特定することができますが、中には、他の病気が原因になっている場合があります。その一つ、『原発性アルドステロン症』の診療に、芳珠記念病院は力を入れておられます。

この病気は、高血圧全体の約1割を占め、通常の高血圧よりも脳卒中や心筋梗塞を引き起こしやすいと言われています。このように、名前は良く聞くけど、実態や重要性などをよく知らないという病気は沢山あります。こういった病気のことを、より多くの皆様に知つていただきために、地域の病院や診療所が連携し、一緒に取り組むことが大切と、地域連携にも力を入れておられます。

今回の取材を通じ、地域における互いの役割を果すとともに、機能を生かした良い連携関係を築き、地域の皆様の健康を支えて行きたいと感じた次第です。

《手術で治る高血圧 原発性アルドステロン症》



おめでとう!

平成21年度 入職式と新人研修



今年も、新入職員を迎える時期になりました。医師一名（副院長）、

看護職員9人、理学療法士4人、作業療法士3人、言語聴覚士1人、医療相談員1人、医療秘書1人の総勢20人が新しい仲間として加わりました。4月1日の入職式では

佐藤病院長の訓示の後、入職者代表が決意の言葉を述べました。
入職式終了後から、早速新入職員は研修に入ります。まず病院の概要や理念・基本方針といった病院全体のことを学びました。次に各部署の長が講師を務め、それぞれの部署の紹介や施設の見学を行ないました。医療情報部は電子カルテの使い方や院内LANの活用方法を説明し、バス委員会はクリニカルバスや地域連携バスなどの運用方法を解説しました。研修終了後、新入職員はそれぞれの部署で、実際の業務に取り組んでいきます。

365日リハビリテーション開始 リハビリセンター 技士長 土山 裕之

従来からSCU（脳卒中ケアユニット）では、脳梗塞のクリニックにより、発症当日からリハビリテーションを提供していましたが、3月からは、回復期リハビリテーション病棟においても365日対応できるようにスタッフを配置しています。

日曜祝日には、在宅復帰の準備として必要な運動や作業など患者さん自身でできる課題を練

当院では、理学療法士15名、作業療法士13名、言語聴覚士6名の合わせて34名の専門スタッフにより急性期から慢性期までの一貫したリハビリテーションを行っています。

昨年秋に新築移転した新病院では、「リハビリセンター」を設け、さらに安全で質の高い医療を提供しています。



また、言語練習を集団で行うことにより、患者さん同士のコミュニケーションになり、社会復帰の前段階として、手ごたえを感じています。
今後はサービス面をさらに充実させ、在宅生活を意識した回復期リハビリテーションを提供していきたいと思います。

習っています。

患者さんコーナー

藤川 静子 様

佐藤院長先生に診察室で「痛かっただしよう?」と言葉を掛けられた時は涙が出そうでした。(我慢せず泣けばよかつた。)と同時に心にも溜まっていた痛みも取れていくような気がしました。

2008年5月12日に朝起きると右足に激痛が走り、ちゃんと立てなくなっていました。夜も痛みで眠れず、足をまつすぐには伸ばせない、横を向いても何をしてでも痛みで眠れない日々が続き、最後には寝返りを打つ度に呻き声が出てしまうようになりました。

色んな病院や治療院を転々としました。そんな時、友人に勧められて8ヶ月目にやっと、この病院に辿りつきました。

以前に手術を勧められた病院もありましたが、誰しも手術と聞くと避けられるものなら避けたいと思うのですが、ここでは「是非お願いします!」と即答应していました。これほど待ち遠しい手術は初めてでした。術後、目が覚めると、足をまつすぐにして上を向いて寝ている自分がいました。夢のようでした。今まで我慢していた自分はなんだつたんだろうとさえ思いました。体の我慢は少しも良いことがないものです。同室の方々にも恵まれ楽しい入院生活でした。院長先生をはじめ医療スタッフの皆様の笑顔と気配りに感謝いたします。そして、食事もおいしく頂きました。本当にありがとうございました。

先生が色々な方向から映したMRIのモニターを見ながら手術しなければならない理由と説明を納得いくまでして下さいました。

した。

以前に手術を勧められた病院もありましたが、誰しも手術と聞くと避けられるものなら避けたいと思うのですが、ここでは「是非お願いします!」と即答应していました。これほど待ち遠しい手術は初めてでした。術後、目が覚めると、足をまつすぐにして上を向いて寝ている自分がいました。夢のようでした。今まで我慢していた自分はなんだつたんだろうとさえ思いました。体の我慢は少しも良いことがないものです。同室の方々にも恵まれ楽しい入院生活でした。院長先生をはじめ医療スタッフの皆様の笑顔と気配りに感謝いたします。そして、食事もおいしく頂きました。本当にありがとうございました。

当院では、地域の皆様方に向けた各種健康に関する講演会等を行っています。3月には次のような講演会活動を行いました。これからも、このような機会を設けていきますので、ふるってご参加下さい。

●3月1日
副院長講演会・「脳卒中について」(福留町生き生きサロン・福留町交流センター(約40名)



第5回QCサークル発表会

3月7日に第5回QCサークル発表会

大会が行われ、今回は9サークルが1

年間の活動の成果を発表しました。
大会がQCサークル活動を取り入れてから今回で5年目を迎え、発表の内容は年を追うごとに充実しています。

当院がQCサークル活動を取り入れてから今回で5年目を迎えて、発表の内容は年を追うごとに充実しています。

QCサークルは、今後日本病院脳神経外科学会やQC全国大会で発表することによって、普段あまり知ることのできない他部門の苦労やそれを解決するためにどのような工夫をしているのかを知ることができます。

今回第1位に輝いたのは経営サポート課・医療情報部の「脳ドックデータの

入賞したサークルは、今後日本病院脳神経外科学会やQC全国大会で発表を行う予定です。

管理・入力の簡素化・効率化】、

第2位は、第3病棟のサークル「ス

マイル」、第3位は第4病棟のサークル「あけくち

ロゴマーク決定!

当院のロゴマークが決定しました。

当院の4つの柱である「脳卒中治療」「脊椎手術」「365日リハビリ」「療養治療」を表わしています。



Kanazawa
Neurosurgical
Hospital



PS・院長先生、
イケメンです。(^_^)v

●3月23日

副院長講演会・「脳卒中について」(福留町生き生きサロン・福留町交流センター(約30名)

18:30

●3月17日
病院長講演会・「JSH2009 高血圧治療ガイドラインに基づく、今後の脳卒中治療戦略」金沢加賀地区病連携情報交換会(ビーズクラブ)

18:30

●3月23日
副院長講演会・「そこが知りたい“脳卒中と認知症”について」白山市石川地区長生会・石川公民館(約150名)

